

第5学年 道徳 学習指導案

本授業における主張

本授業は、主人公の葛藤する心に共感させながら、友達を信頼することや友情を深めることの大切さに気付かせ、実践への意欲を高める授業である。そのために、資料を場面絵によって提示して主人公の葛藤をとらえさせる。そして、解決するための各自の考えを理由と共に明らかにさせる。さらに、だれもが納得できる解決策を話し合わせることを通して、一人一人の考えを深化させていく。これにより、より高い道徳的な価値に気付かせ、実践への意欲を育てていく。

1 主題名 「友達のことよく考えて」

2 資料名 「ぜったい ひみつ」 2－（3）友情・信頼 関連項目 思いやり・親切2－（2）
【荒木紀幸編著 2002「モラルジレンマによる討論の授業～小学校編～」明治図書】一部改作

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

学習指導要領解説道徳編によると、本主題の内容は『「2主として他の人とのかかわりに関すること」(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。【高学年】』である。この内容項目は以下のような関連がある。

低学年(3) 友達と仲よくし、助け合う。

中学年(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。

高学年(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。

※ 極楽浄土(2) だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。

中学校(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

小学校段階では、「助け合う」ということが全学年を貫いている。また、小学校低学年では「仲よく」が加わり、中学年では「互いに理解し、信頼し」、高学年では「互いに理解」という言葉がなくなり、「互いに信頼」「友情を深め」が加わっている。

さらに中学校になると「友情の尊さ」「心から信頼できる友達」などより高い道徳的な価値が加えられている。

5年生の時期は、中学年で培った「互いの理解」を「互いの信頼」に高め「友情を深め」ていかなければならない。この「信頼」とは、文字のように「信じてたよること」である。信じて頼り合う関係には「互いの理解」はもちろん、思いやりの心や相手の立場に立った親切な行動がともなって表出されてくる。したがって2－（3）と（2）「思いやり・親切」の項目は関係が深い。

友達同士の信頼のもとに、共に学び合うことを通して、友情を育てていくことが大切である。まず、お互いを理解し合うこと、その上で相手を思いやり、誠実に行動することが求められる。その過程を通して、友情は深まっていく*1ものである。

しかし、児童は自分と似たような考えや行動を起こせる人を友達として関係を深めていくことが多い。だが、自分とかかわりのある人がすべて自分と同じ思いになるわけではない。そのとき心が乱れ不安定になる。

相手に考え方を変えるなどの変化を求めるのではなく、自分から人を理解し、信頼し合う関係を築こうとすることで良好な友達関係を結んでいけることを学んでいかなければならない。

(2) 児童の実態

全体的に活発で元気なクラスである。学級としてのまとまりはよく、休み時間には体育館や教室で、多くの児童がかかわって遊ぶ姿が見られる。しかし、数人の児童が友達とのかかりがうまくできず、

*1 深い…考えや思いが幾重にも重なり、その時点より色濃い状況

トラブルになる姿がみられる。また、女子の中で友達の悪口を書くなど思いやりに欠けた行動をとる児童も出てきている。しかし、現在、学級集団が比較的良好な状況にあることから友達関係で大きな問題になっていない。

そこで実態を把握するため、10月に行った「ソーシャルスキル尺度に関するアンケート調査（5段階評価）^{*2}」を再度行った。この調査では「配慮スキル」と「かかわりスキル」の差が2段階以上あると友達関係で配慮が必要になる場合がある。10月の段階では、担任の対応が効果を発揮し、これに該当する児童が数名減った。このうち5名が「関わりスキル」が高い。この児童は相手に関わる気持ちは強いが、人への配慮がたりない傾向がある。このため対人関係でトラブルになることが考えられる。あとの2名は配慮が強くなっており、自分の意思がうまく表現できないでいる可能性がある。

このような学級の状況を、さらによい方向に向けるためには、「配慮スキル」と「かかわりスキル」の向上が必要である。そのためには、友達への思いやりの気持ちを育てることである。そして、実践していこうという意欲をもたせることである。6年生を前にしたこの時期、友達について深く考えることで、より高い道徳的価値に気づき、実践意欲をもたせていく必要がある。

(3) 資料について

本授業で取り上げる資料『「ぜったい ひみつ」（荒木紀幸編著「モラルジレンマによる討論の授業～小学校編～」2002 明治図書）一部改作』は、転校する友達のために計画したお別れ会をめぐる起こる主人公の葛藤場面を描いたものである。

転校するのり子さんは、主人公よしえさんとはとても仲がいい。のり子さんが転校することを知ったクラスみんなは、お別れ会をすることを計画する。その中でのり子さんを驚かせ、喜ばせるためにお別れ会のことは、「当日まで絶対に秘密にする」ことをみんなで約束する。よしえさんは、準備を進めながらみんなとの約束を守ろうとする。ところが転校をひかえたのり子さんはひとりぼっちで過ごすことが多くなり、だんだん元気がなくなっていく。その姿を見た主人公よしえさんは、お別れ会のことを、のり子さんに話すべきかどうか悩んでしまうお話である。

クラスみんながのり子さんを喜ばせようと一生懸命に準備する姿、秘密にして一層喜ばせようとする約束は誰しも共感できる。しかし、そのため何も知らず一人ぼっちになるのり子さんの様子を見て、お別れ会のことを話して安心させてあげた方がいいのではないかと主人公は葛藤する。みんなとの約束と、のり子さんへの思いの中で悩む場面が、児童の心を強く揺さぶることになる。

本資料は道徳的価値から考えて正しいと判断できる考えが多くある。このため、児童の多様な考えが出されることが期待できる。お互いがあった考えを話し合っていく中で、自分と違う価値観に出会うことが期待できる。

さらに、友達のことを思っている考えや行動であることをクラス全員で共有し、どうしていったらみんなが満足できるのかを考えることで、友達との関係について一層思いを深めていく授業としたい。

(4) 道徳授業に対する授業者の思い

道徳の授業では児童が「これからの自分、明日の自分や未来に夢や希望、目標を抱き、その実現に向かって積極的に努力していこうとする力をつける」ことが望まれる。

児童が自分の未来に夢や希望を抱くには、道徳授業において一人一人の児童の心に響き、心を振るわせるような授業を進めていかねばならないと考えている。

児童の「心に響き心を振るわせる」には、授業において「道徳的な感動」が大切である。新たな発見や気づきがこれまでの考えを揺さぶり、心の動きを生む。この心の動きが「心に響き心を振るわせる」ことである。

さらに、道徳教材（資料）の中にある主人公や登場人物の思いや行為から、今までより高い道徳的価値観にふれ、心地よい興奮にも似た道徳的実践意欲へとつなげたい。

*2 アンケート項目を「配慮スキル」「かかわりスキル」に分けて集約し、得点にしたがって5段階評価する。低いと評価される項目の他、二つのスキルの評価の差が2段階以上ある場合、人との関わり方のバランスが崩れていることがあり注意が必要となる。この評価に、担任の見取りを加え友達関係などの指導に役立つ。（現早稲田大学 河村茂雄教授考案）

道徳授業において

道徳教材 新たな発見・気付き 道徳的実践意欲
(道徳的な感動) (より高い道徳的価値へ) (心地よい興奮を伴う)

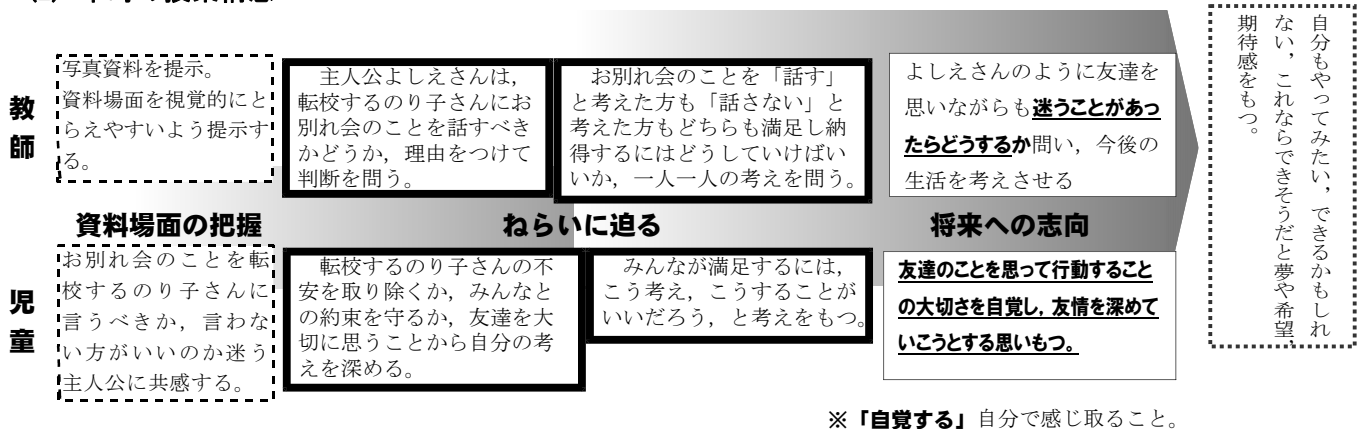
自分もやってみたい、できるかもしれない、これならできそうだと夢や希望、期待感。そして、道徳的実践へ。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

お別れ会のことを転校する友達に話した方がいいか、話さない方がいいか話し合うことを通して、友達を大切にしていこうとする意欲を育てる*³。

(2) 本時の授業構想



※「自覚する」自分で感じ取ること。

本授業では大きく三つの段階で構成する。「資料場面の把握」「ねらいに迫る」「将来への志向」である。

「資料場面の把握」では、主人公よしえさんの苦悩に共感させる。文章での資料は児童に与えず、黒板に資料場面のポイントとなる場面の絵を提示していく。特によしえさんの迷いと のりさんの不安は強く印象づけなければいけない。そこで、二人の表情は笑顔と思ひ悩む表情を提示する。

「ねらいに迫る」の場面では、「よしえさんは、 のりさんにお別れ会のことを話した方がいいか、話さない方がいいか」自分の考えをワークシートに書かせる。これをクラス全体で話し合い、友達に対してどのような思いで接していけばいいのかが深く考えていく。そして、話し合った内容がすべて友達のことを思っていることに気付かせる*⁴。

「将来への志向」の場面では、これからの生活の中で「どのようにしていきたいか」を児童に書かせる。これにより、本時で気付いた「自分から友達を大切にしようとする思い」を、これからの生活に生かす気持ちを表現させるようにする。最後に、できるだけ多くの児童から発表してもらい互いの思いを共有*⁵していく。

(3) ねらいを達成するための主な手だて

① 資料の提示

文章資料*⁶は児童に提示せず、資料を絵で示したり操作したりしながら、場面を構成していく方法をとる。この方法は、クラス全体の雰囲気を作り出す効果がある。

*³ 育てる・成長させる。教え導く。躡ける。煽動する。 養う・だんだんに作りあげる。養育する。

*⁴ 気付く・気持ちが向く、関心をもつ、注意ができる状態。

*⁵ 共有・2人以上が、同じ思いをもつこと。

*⁶ 資料・資料内容全体。

さらに、心を揺さぶる場면을強調して進めることで、問題となる場면을意識づけすることができる。したがって児童一人一人の心を、資料に深く共感*7させることができる。

また、問題場面*8での児童の反応や場面構成の様々な条件を加味し資料を示していける。授業者の適切な提示によって、一層効果が期待できる手法である。

② 自分の考えを深め、より高い道徳的価値に気付く話し合い

主人公のよしえさんは、のり子さんの悲しんでいる様子を見るとお別れ会のことを話すべきか、黙っていた方がいいのか悩み苦しむ。転校するのり子さんへの思い、クラスメイトがのり子さんのために懸命に準備している気持ちへの思いの中で迷ったための姿である。

児童は自分のこれまでの道徳的な価値観*9からどうしたらいいか判断するであろう。しかし、多くの意見を聞く中でそれぞれの考えがより深められていく。そして、どちらも満足できるには、どうしたらいいか考えることで、今までより高い道徳的な価値に気づくことになる。

この話し合いの際、自分の考えを明確にするために赤ペン（のり子さんに話さない）・白（話す）のカードをもたせる。これにより自分の考えを明らかにし話し合いに望むことができる。

③ ワークシートへの「将来への志向」の文章化

本授業では「友達のことを思って行動するにはどうしたらいいか考え、未来の自分に生かそうとする意欲をもつ」ことをねらっている。したがって「これから自分はどうなりたいのか」（道徳的実践への意欲をもつ）を考えさせたい。

正価値*10同士で話し合うことによって、道徳的価値はより深く意識付けすることができ、児童の道徳的な価値を認知する認知構造も変化させることができる。そして、未来の自分への期待感を強くもたせることをねらっている。

(4) 本時の展開

① 本時のねらい

お別れ会のことを転校する友達に話した方がいいか、話さない方がいいかについて話し合うことを通して、友達を大切にしていこうとする意欲を育てる。

* 7 共感・相手の立場に立って、相手が考え、思い、感じていることを、同じように感じとり理解すること。しかも相手との間には適当な心理的距離を置きながら相手の感情に巻き込まれていない状態。

* 8 場面・資料の中の一場面。 問題場面・児童に深く考えさせる場面。

* 9 価値観・ものごとを見る見方、見解。

* 10 正価値・社会の存続にとって大切な普遍性をもつこと。

② 本時の展開

時間	主な教師の働き掛け（T発問・O教師の働き掛け）・児童の反応	・留意事項 【】評価 ○支援		
00分 05分	<p>① 導入 小学校4年生が書いた詩を提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T1 この詩を書いた子は、どんなことを伝えたかったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・転校していった子がいなくて寂しい。 ・いなくなると大切だったことが分かる。 ・大事な友達が転校して悲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大投影（BGM入り）する。 ・席から離れ画面の近くに集めて提示する。 ・児童が感じたまま言葉で話をさせる。 		
15分 18分 23分 33分	<p>② 資料場面の把握 資料場面を黒板に再現していく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T2 のり子さんは今、どんな気持ちでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたのかな、と不安な気持ち ・何かあるのかな、と疑う気持ち ・いじわるをしているの、疑いたくなる気持ち ・私のことを無視しているのかな、と悲しい気持ち ・もうすぐ転校なのに、悲しい気持ち <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T3 よしえさんはのり子さんにお別れ会のことを話した方がいのでしょうか、それとも話さない方がいのでしょうか。ワークシートに自分の考えを書いてみましょう。</p> </div> <p>※各自が自席でワークシートに自分の考えを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T4 よしえさんはのり子さんにお別れ会のことを話した方がいのでしょうか、それとも話さない方がいのでしょうか、理由も付けて発表してください。</p> </div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>「話した方がいい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○もうすぐ転校するのにのり子さんがかわいそう。 ○のり子さんは大切な友達。友達が悲しんでいるのだから助けるべき。 ○みんなが嫌いになったと勘違いしているから。 ○クラスみんなには話せばわかってもらえる、友達だから。 ○悲しい気持ちのままお別れ会をしてものりさんは喜んでくれないから。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>「話さない方がいい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラスみんなとの約束だから。 ○黙っていた方がのりさんの喜びは大きくなると思うから。 ○クラスのみんなはずっとお別れ会を目指した準備をしているから。 ○約束を破るとクラスみんなが怒るかも。のりさんはいなくなってもよしえさんはずっといるからクラスの約束を守った方がい。 </td> </tr> </table>	<p>「話した方がいい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○もうすぐ転校するのにのり子さんがかわいそう。 ○のり子さんは大切な友達。友達が悲しんでいるのだから助けるべき。 ○みんなが嫌いになったと勘違いしているから。 ○クラスみんなには話せばわかってもらえる、友達だから。 ○悲しい気持ちのままお別れ会をしてものりさんは喜んでくれないから。 	<p>「話さない方がいい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラスみんなとの約束だから。 ○黙っていた方がのりさんの喜びは大きくなると思うから。 ○クラスのみんなはずっとお別れ会を目指した準備をしているから。 ○約束を破るとクラスみんなが怒るかも。のりさんはいなくなってもよしえさんはずっといるからクラスの約束を守った方がい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章資料は児童に渡さない。資料提示は10分程度。 ・のり子さんへの共感が十分ではないと判断（下記の評価によって判断）できるとき、のりさんの不安感に共感させるため、役割演技を取り入れる。 ・赤、白のカードによってどちらの立場か明確にする。（1回目） ・お別れ会のことを話した方がい、話さないほうがいのか、理由を付けて書く。 <p>【お別れ会のことをのりさんに話した方がいのか、話さない方がいのか理由を書くことができたか。】</p> <p>A 理由を書くことができ、積極的に発言している。</p> <p>B 理由を書くことができてい。</p> <p>評価方法：机間指導・発言</p> <p>支 援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「あなたがよしえさんなら話しますか、話しませんか」と問い考えを示すように支援する。 ・赤、白のカードのよってどちらの立場か明確にする。（2回目） ・話し合っているとき、どちらが正しいか正しくないかの話し合いにならないようにする。そのために違う立場でも、理解できる場所はどこか、考えるよう投げ掛ける。 ・よしえさん自身の、のり子さんを含めた友達への深い思いであり、どんなときもそれを忘れてはいけないことを確認する。
<p>「話した方がいい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○もうすぐ転校するのにのり子さんがかわいそう。 ○のり子さんは大切な友達。友達が悲しんでいるのだから助けるべき。 ○みんなが嫌いになったと勘違いしているから。 ○クラスみんなには話せばわかってもらえる、友達だから。 ○悲しい気持ちのままお別れ会をしてものりさんは喜んでくれないから。 	<p>「話さない方がいい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラスみんなとの約束だから。 ○黙っていた方がのりさんの喜びは大きくなると思うから。 ○クラスのみんなはずっとお別れ会を目指した準備をしているから。 ○約束を破るとクラスみんなが怒るかも。のりさんはいなくなってもよしえさんはずっといるからクラスの約束を守った方がい。 			
33分	<p>①ねらいにせまる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T5 のり子さんもクラスの友達も一人一人がかけがえない大切な友達ですね。関係している人達みんなが「それならいいね」と思えるには、どうしたらいいのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お別れ会のことをのりに伝え、クラスみんなに「のり子 	<ul style="list-style-type: none"> ・のりに話すのはどの程度か切り返 		

40分	<p>さんが悲しんでいること」を伝え、話したことをわかってもらおう。その上で、みんなでできる限りすてきなお別れ会にしようとする。</p> <p>※のり子を思いやり、クラスの友達へも配慮し思いやりのある行動をとろうとする。(対人規範の道徳性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お別れ会のことは話さないが、クラスのみんなも私(よしえ)もみんなあなたが大好きで、分かれたくないと思っていることを伝え、のり子の不安を取り除こうとする。 <p>※のり子のことを思い、クラスの友達への思いにも答えようとする。(対人規範の道徳性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のり子にお別れ会のことを話しクラスの友達の、のり子に対する温かい気持ちを伝え、知っていることは黙っていてもらう。 <p>※のり子への思いやりで不安を解消し、クラスの友達への思いで黙っていてもらう。(対人規範の道徳性)</p>	<p>しの発問で、クラスの友達への思いも確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しんでいるのり子を納得させるためにどのように話すのか、明らかにすることでのり子への思い、クラスの友達への思いを確認する。 ・クラスの友達に黙っていることはクラスの友達ががんばって準備していることへの思いであること、のり子に話すのはのり子への思いであることを確認する。
40分 43分 45分	<p>④ 将来への志向</p> <p>○ よく考えましたね。今日、考えたことを大切にしていきたいでしょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 6 この授業で考えたことや学んだことから、<u>あなたが、よしえさんのように迷ったらどうしますか。</u>ワークシートに書いてください。最後に発表しましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちを考えて、自分ができることをしていくこと。 ・約束はとっても大切。でも友達の気持ちをよく考えて行動することも大切なこと。 ・友達が困っているとき、いっしょにいて励ましたり、元気づけたりすることが大切なこと。 <p>○ 授業者説話</p> <p>友達はいて当たり前ではないこと、男女の別なく友達として相手の思いをよく考え、行動することが友達としてとっても大切であることを伝える。</p>	<p>【友達の気持ちを考えて話したり、行動したりすることが大切だという内容が書けたか。】</p> <p>A 友達の気持ちを思いやり、話したり行動したりすることが大切という内容が書けている。</p> <p>B 友達の気持ちを思いやることが大切という内容が書けている。</p> <p>評価方法：机間指導・ワークシート 支 援：</p> <p>○「友達と生活している時、どんな気持ちが大切になるかな」と問い掛け、個別指導によって共に考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者の意見を温かい雰囲気の中で聞けるよう最後に拍手と似たような考えの児童からも発表をしてもらい、考えをつなげていくように指名する。

6 本時の評価

友達のことを思いやって行動することの大切さに気付き、自分自身もこれから努力していこうとする意欲をもつ*11ている。

7 評価の方法

本授業での評価は、授業中の発言・ワークシートへの記述（記載内容と最後に書く授業への児童の評価）で行なっていく。

児童の発言については挙手による発言にとどまらず、授業者が指名していく形を多く取りたい。今思っていることを自分だけのものとせず、常にシェアリングの状況を形成していくことで思いを共有させていく。

*11 意欲をもつ・積極的にになにかをしようとする心の状態になる。 思いをもつ・物事から自然に感じられる状態を認識している。

